



最初にお読みください

CentreCOM® GS908M/916M/924Mリリースノート

この度は、CentreCOM GS908M/916M/924M をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。

このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 1.4.5

2 本バージョンで追加された機能

ファームウェアバージョン 1.4.0 から 1.4.5 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。各機能の詳細については、「CentreCOM GS900M シリーズ コマンドリファレンス 1.4.5 (J613-M0220-03 Rev.E)」をご覧ください。

2.1 例外発生ログの保存と表示

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

クラッシュによるリポートが発生した場合に、ログがフラッシュメモリーに保存されるようになりました。

ログを表示するには SHOW CRASHLOG コマンドを使います。

2.2 キーワードの補完機能設定パラメーター

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」

コマンド入力時にスペースまたは Tab キーでキーワードを補完する機能について、機能を無効にする、補完を行うキーをスペースか Tab のどちらか一方だけにするといった設定ができるようになりました。

SET CONSOLE コマンドの COMPLETION パラメーターを使います。

2.3 ループガード

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

受信レート検出：

パケットの受信レートがポートごとに設定された上限値を上回った場合に、該当ポートに対してリンクダウンやブロードキャストパケットの受信停止といったアクションをさせることで、ループの発生を防止する受信レート検出に対応しました。

ENABLE SWITCH STORMDETECTION コマンドで機能を有効にし、SET SWITCH STORMDETECTION コマンドでパラメーターの設定を行います。

LDF 検出：

一定時間ごとに特殊な試験フレーム (LDF) を送出し、接続機器を介して同じ LDF が同じ筐体に戻って来た場合に、LDF 送出ポートに対してリンクダウンやブロードキャストパケットの受

信停止といったアクションをさせることで、ループの発生を防止する LDF 検出に対応しました。

ENABLE SWITCH LOOPDETECTION コマンドで機能を有効にし、SET SWITCH LOOPDETECTION コマンドでパラメーターの設定を行います。

2.4 SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドの表示内容

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される内容に以下の項目が追加されました。

Receive (受信トラフィックカウンター) :

PauseFrames (PAUSE フレーム数)

UndersizePkts (アンダーサイズフレーム数)

Fragments (フラグメントフレーム数)

Jabbers (ジャバーフレーム数)

2.5 DISABLE SWITCH PORT コマンドの LINK パラメーター

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

DISABLE SWITCH PORT コマンドに LINK パラメーターが追加され、ポートをディセーブルにすると同時に、物理的にリンクダウンさせるかどうかを指定できるようになりました。LINK=DISABLE を指定した場合、ポートが物理的にリンクダウンします。LINK パラメーター省略時および LINK=ENABLE を指定した場合、ポートはリンクアップしたままとまります。

2.6 省電力モード

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

リンクしていないスイッチポートへの電力供給を制限し、消費電力を抑える省電力モードに対応しました。

省電力モードを有効にするには、ENABLE SWITCH POWERSAVE コマンドを使います (本機能の設定は、スイッチポート別ではなく、装置全体に対して機能します)。

2.7 ポートの通信モード 1000M Full Duplex 設定

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

SET SWITCH PORT コマンドの SPEED パラメーターに 1000MFULL を指定できるようになりました。

1000BASE-T ポートの場合は、オートネゴシエーション有効で 1000M と Full Duplex のみが通知されるモードになります (1000MFAUTO)。

1000M 光ポート (SFP ポート) の場合は、オートネゴシエーション無効の 1000M Full Duplex 固定モードになります。

2.8 EPSR アウェア

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「EPSR アウェア」**

リング構成の Ethernet ネットワークに特化したレイヤー 2 のループ防止・冗長化機能、イーサネットリングプロテクション (EPSR) のアウェア機能に対応しました。障害時のリング切り替えに加えて自ら検出した障害をマスターノードに通知することができます。

2.9 ポート認証 Supplicant MAC 透過

 「コマンドリファレンス」 / 「ポート認証」

特定の MAC アドレスを送信元アドレスに持つフレームのみを常に認証済みの Supplicant として通信可能にする Supplicant MAC 透過機能に対応しました。

Supplicant MAC 透過アドレスを登録するには、SET PORTAUTH PORT SUPPLICANTMAC コマンドを使います。

3 本バージョンで仕様変更された機能

ファームウェアバージョン 1.4.0 から 1.4.5 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が仕様変更されました。各機能の詳細については、「CentreCOM GS900M シリーズ コマンドリファレンス 1.4.5 (J613-M0220-03 Rev.E)」をご覧ください。

3.1 DISABLE SWITCH PORT コマンドの仕様変更

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

DISABLE SWITCH PORT コマンドでトランクグループに所属しているスイッチポートを無効にできるようになりました。ステータスが無効のスイッチポートをトランクグループに追加することも可能です。

3.2 タグ付きポートから送出される EAP パケット

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

EAP 透過機能有効時に、タグ付きポートから送出される EAP パケットにはタグが付与されるようになりました。

4 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 1.4.0 から 1.4.5 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 SHOW CONFIG コマンドのように値の入力を必要としないコマンドやパラメーターに何らかの値 (SHOW CONF=test など) を入力してスペースまたは Tab キーを押すと、「dummy for help string」という不正なメッセージが表示されていましたが、何も表示されないように修正しました。
- 4.2 HELP、PING、COPY、TELNET コマンドに続けて、空白で区切られた文字列 (例 : a a a a a...) を空白を含め 33 文字以上入力すると、エラーが発生し本製品がリブートすることがありましたが、コマンド構文エラー (Command syntax error) になるよう修正しました。
- 4.3 SHOW SNMP TRAP コマンドに対して、Tab キーで次に選択可能なキーワードの一覧を表示させたときに、login が表示されませんでした。表示されるように修正しました。
- 4.4 DHCP クライアント機能または Telnet クライアント機能有効時に CREATE CONFIG コマンドを実行すると、ファイルシステムの再構成が正常に行われず、該当の設定ファイルが破損することがありましたが、これを修正しました。

- 4.5 SET SYSTEM コマンドのオンラインヘルプで表示されるパラメーターの説明に一部誤りがありましたが、これを修正しました。
- 4.6 ipAdEntIfIndex (1.3.6.1.2.1.4.20.1.2) および ipNetToMediaIfIndex (1.3.6.1.2.1.4.22.1.1) に、IfIndex (1.3.6.1.2.1.2.2.1.1) にない IfIndex が設定されていましたが、これを修正しました。
- 4.7 SNMP マネージャーによって、FAN、TEMPERATURE、VOLTAGE、LOGIN トラップが正しく識別されない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.8 オブジェクト ID 「ipNetToMediaNetAddress(1.3.6.1.2.1.4.22.1.3)」に、IP アドレスが逆の順序 (192.168.1.1 の場合、1.1.168.192) でセットされていましたが、これを修正しました。
- 4.9 ファームウェアバージョン 1.3.2 以前で作成された設定ファイルに enable snmp trap=fan の設定が含まれる場合、バージョン 1.4.0 では、コマンドがエラーとなり設定が反映されませんでした。バージョン 1.4.5 以降では、エラーにならないように修正しました。
- 4.10 プライベート MIB のトラップを送信し続けるような状況にあると、メモリーリークを起し、本製品宛での通信ができなくなる、本製品がリポートするなどの現象が発生していましたが、これを修正しました。
- 4.11 MAC アドレスが複数登録されている状態で、ブリッジ MIB からインターフェース MIB にかけての Get Next を実行すると、SNMP や Ping に応答しなくなる場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.12 ARP キャッシュに大量のエントリが登録されている場合、プライベート MIB と MIB-II の IP グループの取得に時間がかかっていましたが、これを修正しました。
- 4.13 本製品宛での通信に高負荷がかかっていると、Telnet の接続エラーが発生し、本製品がハングアップすることがありましたが、これを修正しました。
- 4.14 RADIUS アカウンティング機能有効時、大量の Accounting-Response パケットを受信するとメモリーリークが発生していましたが、これを修正しました。
- 4.15 本製品自身の MAC アドレスがスタティックエントリとして FDB に登録されている場合、設定を保存し、再起動するとエラーが発生する場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.16 FDB に大量の MAC アドレスが登録されている状態で、本製品宛での通信を長時間実行していると、本製品がリポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 4.17 本製品では、ICMP Redirect メッセージは無視される仕様ですが、処理が行われる場合があったため、これを修正しました。

- 4.18 ポートミラーリングを有効にしたあとで、ソースポートの設定を変更すると、ポートミラーリング有効の設定が設定ファイルから削除されていましたが、削除されないように修正しました。
- 4.19 1つのポートに対して、通信モードの固定設定（SPEED で AUTONEGOTIATE/100MFULL 以外を指定）とパケットストームプロテクションの設定（BCLIMIT/DLFLIMIT/MCLIMIT）を同時に行い、設定を保存後本製品を再起動すると該当ポートがリンクアップしなくなっていました。これを修正しました。
- 4.20 PAUSE フレーム受信時に、SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドの Discards と UnknownProtos が不正にカウントアップされないように修正しました。本修正にともない、UnknownProtos は 0（ゼロ）固定となります。
- 4.21 10M Half Duplex の通信モードでワイヤーレートで通信が行われているポートに対して、通信モードを 10M Full Duplex に変更する設定を行うと、正常な通信ができなくなることがありましたが、これを修正しました。
- 4.22 通信中のポートに対して SET SWITCH PORT コマンドの SPEED パラメーターで通信モードの変更を行うと、該当ポートがリンクアップしなくなる場合があります。これを修正しました。
- 4.23 トランクポートに対して RESET SWITCH または RESET SWITCH PORT コマンドでポートリセットを行うと、ポートの MDI/MDI-X 設定（SET SWITCH PORT コマンドの POLARITY パラメーターによる設定）がデフォルト（MDI-X）に戻っていましたが、これを修正しました。
- 4.24 IGMP Snooping でグループが登録される前に、マルチキャストデータを高レートで受信し続けると、グループが登録されていない状態では IGMP パケットが転送されない場合があります。これを修正しました。
- 4.25 ポート認証有効時、Authenticator ポートとしてリンクしているポートに対して、SET PORTAUTH PORT コマンドで TYPE パラメーターに NONE を指定して実行後、さらに同コマンドで TYPE パラメーターに AUTHENTICATOR を指定して実行すると、該当ポートで再認証がされませんでした。これを修正しました。
- 4.26 Authenticator ポートを Multi-Suppliant モードから Single-Suppliant モードに設定変更して認証を行うと、認証後再度 Suppliant に EAP-Request パケットが送信されていましたが、これを修正しました。
- 4.27 ポート認証時、FDB を管理するテーブルに最大数まで MAC アドレスが登録されていると、新たな Suppliant の認証には失敗しますが、SHOW PORTAUTH コマンドで Authenticated（認証済み）として表示されていたため、これを修正しました。
- 4.28 ゲスト VLAN が設定されている状態で VLAN モードの変更を行うと、ゲスト VLAN の設定が設定ファイルに残ったままになり、設定保存後に再起動するとゲスト VLAN に指定されている VLAN が存在しないためエラーが発生していましたが、これを修正しました。

- 4.29 ダイナミック VLAN 有効時、いったんポート認証モジュールを無効にしてから再度有効にすると、RADIUS サーバーから有効な VLAN の情報が返ってきているにもかかわらず、ポートが本来の VLAN 所属となっていました。これを修正しました。
- 4.30 ゲスト VLAN 設定時、いったんポート認証モジュールを無効にしてから再度有効にすると、Authenticator ポートが未認証の状態であるにもかかわらず、ゲスト VLAN の所属になりませんでした。これを修正しました。
- 4.31 RADIUS パケットの Framed MTU を 1024Byte から 1500Byte に変更しました。
- 4.32 スパニングツリープロトコルと 802.1X 認証を異なるポートで同時に使用した場合、Multi-Supplicant モードに設定された Authenticator ポートで、認証が成功しても通信できないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.33 802.1X 認証において、2 台の RADIUS サーバーが登録された状態で本製品を起動後、優先順位 2 のサーバーでのみ認証が行われた場合、1 回目の認証に失敗していましたが、これを修正しました。
- 4.34 ポート認証時、FDB に最大数まで MAC アドレスが登録されていると、認証済みの Supplicant を FDB に登録できず、Authenticator ポートの状態は待機中になりますが、このときに Stop 属性を持つ Accounting-Request パケットを送信し、セッションの終了が RADIUS サーバーに通知されるように修正しました。
- 4.35 802.1Q タグ VLAN モードで Authenticator ポートの設定を行い、その後 VLAN モードをマルチプル VLAN → 802.1Q タグ VLAN と変更すると、マルチプル VLAN モードではダイナミック VLAN が無効 (VLANASSIGNMENT=DISABLED) になるため、再度 802.1Q タグ VLAN モードに戻したときに VLANASSIGNMENT=DISABLED の設定が設定ファイルに残ったままになっていました。これを、VLAN モード変更時には VLANASSIGNMENT の設定が設定ファイルに反映されないように修正しました。VLAN モード変更後は、802.1Q タグ VLAN モードの場合はデフォルト ENABLED、マルチプル VLAN モードの場合はデフォルト DISABLED で起動します。
- 4.36 ポートがダイナミック VLAN にアサインされているとき、ADD VLAN PORT コマンドで該当ポートの (本来の) 所属 VLAN を変更した場合、認証済みの Supplicant がいなくなっても、設定変更が反映されず、変更前の VLAN に所属していましたが、これを修正しました。
- 4.37 ダイナミック VLAN が有効で、かつ Multi-Supplicant モードのときに、1 台目の Supplicant が認証失敗、2 台目の Supplicant が認証成功後、再度待機中だった 1 台目の Supplicant の認証を行うと、SHOW PORTAUTH コマンドで 1 台目の Supplicant の情報が 2 つ表示されていましたが、これを修正しました。
- 4.38 ダイナミック VLAN が有効で、かつ Multi-Supplicant モードのときに、複数の Supplicant の認証が同時に行われ、認証に成功した Supplicant と失敗した Supplicant への処理が重なると、ポートがダイナミック VLAN にアサインされず、本来の VLAN 所属になっていましたが、これを修正しました。

- 4.39 Service-Type 属性のない Access-Accept パケットを受信しても認証が成功していましたが、認証失敗となるように修正しました。
- 4.40 本製品から送出される Accounting-Interim-Update パケットの NAS-Port 属性に Authenticator の物理ポート番号 + 1 の値がセットされていましたが、これを修正しました。
- 4.41 SET PORTAUTH PORT コマンドで CONTROL パラメーターに UNAUTHORISED が設定されているポートが、DISABLE PORTAUTH コマンドでポート認証モジュールを無効にしたあと、通信できなくなっていました。これを修正しました。
- 4.42 本製品が Supplicant のとき、Supplicant ポートのリンクアップ時にメモリーの確保が正常に行われず、メモリーリークが発生することがありましたが、これを修正しました。
- 4.43 本製品が Supplicant のとき、起動のタイミングによって、まれに Supplicant ポートから正常に EAP パケットが送信されず、認証できないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.44 Authenticator ポートにゲスト VLAN と Piggy back モード有効 (PIGGYBACK=ENABLED) の設定がされているとき、Supplicant からの応答がタイムアウトすると、ゲスト VLAN 所属ポートであってもゲスト VLAN 内での通信ができなくなっていました。これを修正しました。
- 4.45 本製品が Authenticator のとき、スタティックエントリーとして FDB に登録済みの MAC アドレスを持つ Supplicant の認証に成功していましたが、認証できないように修正しました。
- 4.46 スパニングツリーで Point to Point が無効の場合、上位のブリッジから proposal フラグがセットされた BPDU を受信しても、agreement フラグがセットされた BPDU が返されませんでした。これを修正しました。
- 4.47 スパニングツリー有効時、BPDU の受信のタイミングによっては、ルートブリッジからの情報が反映されず、ループが発生する場合があります。これを修正しました。
- 4.48 スパニングツリー有効ポートで BPDU を高レートで受信し続けると、本製品が FTP に応答しなくなることがありましたが、これを修正しました。
- 4.49 FDB に大量の MAC アドレスが登録されている状態でスパニングツリーのトポロジーチェンジが発生すると、トポロジー再構築後、本製品宛での通信がただちに復旧しない場合があります。これを修正しました。
- 4.50 ダイナミック VLAN 有効時、認証と再認証が繰り返し行われていると、本製品がリブートする場合があります。これを修正しました。
- 4.51 存在しないポートや名前など不正な文字列を含むアドレス (URL) を指定して Web GUI 画面を表示させようとする、本製品がクラッシュする場合があります。これを修正しました。

- 4.52 Web GUI で、デフォルト VLAN など本来エラーになって削除されるべきでない VLAN を削除しようとする、エラーにならずに該当 VLAN の所属ポートが削除されることがありましたが、これを修正しました。
- 4.53 (GS908M のみ) Web GUI の「スイッチ設定 - ポート」画面で「全ポート変更」ボタンをクリックして「ポート設定」画面をひらくと、GS908M では不要な「コンポート (Combo)」の項目が表示されていましたが、表示されないように修正しました。
- 4.54 Web GUI でゲスト VLAN に指定されている VLAN を削除しようとしたときに、適切なエラーメッセージ「ポート認証により動的に割り当てられた VLAN であるため、削除することはできません。」が表示されるように修正しました。
- 4.55 Web GUI で、「ログ表示」や「FDB 表示」などのウィンドウを表示させた状態で、「ポート認証 - ポート設定」の Authenticator ポートの設定画面をひらけませんでした、これを修正しました。
- 4.56 Web GUI でポート認証有効ポートに対してポートセキュリティの設定をしようとしたときに、適切なエラーメッセージ「ポート認証が有効なポートには設定できません。」が表示されるように修正しました。
- 4.57 Web GUI の「システム情報」画面にあるポートの状態表示 (画像) で、SFP ポートの「リンクしているが無効の状態」が正しい画像で表示されていませんでしたが、これを修正しました。

5 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン 1.4.5 には、以下の制限事項があります。

5.1 フラッシュメモリの空き容量

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ファイルシステム」

フラッシュメモリーに 128KByte 以上の設定ファイルが存在する状態で、起動時設定ファイルの指定を切り替え続けていると、本製品がハングアップする場合があります。

5.2 SNMP

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

- SNMP マネージャーのタイムアウトによって、同時に5 個以上のSNMP マネージャーから ifEntry を Get できない場合があります。SNMP マネージャーのタイムアウト値を長く設定するようにしてください。
- ファームウェアバージョン 1.4.5 で、ループガード (受信レート検出 / LDF 検出) がサポートされ、CREATE SNMP COMMUNITY コマンドおよび ENABLE SNMP TRAP コマンドの TRAP パラメーターに STORMDETECTION と LOOPDETECTION の指定ができるようになりました。これにより、バージョン 1.4.0 以前で TRAP パラメーターに ALL を指定している場合、1.4.5 へのバージョンアップ時に設定が以下のように反映されますので、ご注意ください。

バージョン 1.3.2 以前で ALL を指定して作成された設定ファイル：

CREATE SNMP COMMUNITY コマンド

→ STORMDETECTION と LOOPDETECTION が含まれます。

ENABLE SNMP TRAP コマンド

→ STORMDETECTION と LOOPDETECTION は含まれません。

バージョン 1.4.0 で ALL を指定して作成された設定ファイル：

CREATE SNMP COMMUNITY コマンド

→ STORMDETECTION と LOOPDETECTION は含まれません。

ENABLE SNMP TRAP コマンド

→ STORMDETECTION と LOOPDETECTION は含まれません。

5.3 RADIUS サーバー

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」**

802.1X 認証有効時、SET RADIUS コマンドの DEAD-ACTION パラメーターで PERMIT を設定しても、RADIUS サーバーからの応答がないときに、通信ができなくなる場合があります。SET RADIUS コマンドの DEADTIME パラメーターが 0（ゼロ=デフォルト）の場合、本現象は発生しません。

5.4 ループガード (受信レート検出)

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

受信レート検出機能を使用する際、エラーパケットを受信した場合も受信レートカウンターに計上されます。

5.5 スwitching

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

- スwitchポートの通信速度を AUTONEGOTIATE、10MHAUTO、10MFAUTO、100MHAUTO、100MFAUTO、10-100MAUTO に設定すると link-down、link-up メッセージが表示されないポートがあります。
- SET SWITCH PORT コマンドの PORT パラメーターに ALL、SPEED パラメーターに AUTONEGOTIATE 以外を指定して実行すると、コンボポートに対して 1000MFULL が設定されます。コンボポートをオートネゴシエーションで動作させたい場合は、再度設定してください。
本現象は、Web GUI では発生しません。
- 通信モードが 1000M Full Duplex 固定に設定された光ポート（SFP ポート）に対して、物理的にリンクダウンさせる設定を行わないでください。
DISABLE SWITCH PORT コマンドによる LINK=DISABLE の設定、および SET SWITCH LOOPDETECTION/STORMDETECTION コマンドによる ACTION=LINKDOWN の設定が本制限に該当します。

5.6 IGMP Snooping

 **「コマンドリファレンス」 / 「IGMP Snooping」**

- IGMP Snooping 有効時、メンバーが存在するポートをミラーポートに設定しても、IGMP Snooping 用のテーブルから該当ポートの情報が削除されません。

- IGMP Snooping と EPSR アウェアまたはスパニングツリープロトコル併用時、経路の切り替えが発生したときにマルチキャストグループの登録がクリアされないため、切り替え前に登録されたルーターポートが残ったままになります。

5.7 スパニングツリー

 **「コマンドリファレンス」 / 「スパニングツリープロトコル」**

本製品の実装では、トポロジーチェンジ発生時にエッジポートに設定されたポートの FDB が消去されます。

5.8 Web GUI

 **「コマンドリファレンス」 / 「Web GUI」**

- 存在しない RADIUS サーバーを登録し、GUI からのログイン時にデフォルト以外のユーザー名とパスワードを入力すると、RADIUS 認証のタイムアウトが発生するまでの時間が設定時間よりも長くなる場合があります。
本現象は、CLI では発生しません。
- 通信負荷が高い状態で、Web GUI からファームウェアをダウンロードすると、ファームウェアのアップデート完了後、アップデートの進捗画面が自動的に閉じられないことがあります。

6 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足

取扱説明書、および「CentreCOM GS900M シリーズ コマンドリファレンス 1.4.5 (J613-M0220-03 Rev.E)」の補足事項です。

6.1 FAULT LED の点滅条件

 **「取扱説明書」 24 ページ**

ファームウェアバージョン 1.3.2 から 1.4.0 へのバージョンアップにおいて、FAULT LED の点滅条件が、以下のように変更になりました。

- **1 回点滅：**
(約 1 秒の点灯と約 1 秒の消灯を繰り返す場合)
本製品起動中、またはフラッシュメモリーに書き込み中
(点滅と点滅の間の消灯時間が約 2 秒間の場合)
ファンの異常発生時
- **3 回点滅：**
電圧の異常発生時
- **6 回点滅：**
内部温度の異常発生時

6.2 サポートする MIB について

 **「取扱説明書」 108 ページ**

ファームウェアバージョン 1.0.0 から 1.1.0 へのバージョンアップにおいて、ブリッジ MIB に対応しました。これにともない、「本製品の仕様」の「サポート MIB」に、ブリッジ MIB (RFC1493) を追加します。

6.3 NTP

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」**

登録された NTP サーバーがネットワーク上に存在しない状態で RESET NTP コマンドを連続して実行すると、ARP Request が正常に送信されない可能性があります。このような状態で RESET NTP コマンドを連続して実行する場合は、1 分以上の間隔をあけるようにしてください。

6.4 IP

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」**

ICMP エコー要求 (Ping) パケットを受信したとき、応答に 20 ミリ秒程度かかる場合がありますが、これは正常動作です。

6.5 スイッチング

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

- SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される FCSErrors カウンターと、ExcessiveCollisions カウンターが正しくカウントされません。
- SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される送信トラフィックカウンターの「Discards」は、指定ポートで受信したパケットを他ポートから送信する際に、バッファのオーバーフローなどで破棄されたパケットの数です。指定ポートから送信される際のカウンターではありませんので、ご注意ください。
- リンクアップしているポートに対して、SET SWITCH PORT コマンドの SPEED パラメーターに現在の通信モードと同じモードを指定してコマンドを実行すると、対向機器のポートの通信モードがオートネゴシエーションの場合に限り、本製品の該当ポートがリンクダウンします。
- オートネゴシエーションでリンクしている 1000M 光ポート (SFP ポート) に対して、通信モードを 1000M Full Duplex 固定に変更する設定を行っても、リンクダウンは発生しません。
- イングレスフィルタリング無効時は、受信パケットの VID が受信ポートの所属 VLAN と一致していない場合でも該当パケットは破棄されませんが、ポート認証やポートセキュリティによってスタティックエントリーとして FDB に登録されている MAC アドレスを送信元 MAC アドレスに持つパケットについては、VID が一致していないと転送されずに破棄されます。

6.6 ポートミラーリング

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

タグ付き設定のソースポートでタグ付きパケットを受信すると、タグなしでミラーポートから出力されます。

6.7 パケットストームプロテクション

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

SET SWITCH LIMITATION コマンドで、受信上限値に 1500 (pps) 以上を指定して、パケットストームプロテクションを有効にすると、受信レートが設定値に達しない場合があります (ブロードキャスト / マルチキャスト / 未学習のユニキャストパケットで共通)。

6.8 IGMP Snooping

 **「コマンドリファレンス」 / 「IGMP Snooping」**

- Leave メッセージを受信したあとも Group Address、VLAN 名は SET IGMP Snooping TIMEOUT コマンドで設定した時間まで削除されません。TIMEOUT=0 設定時は Leave メッセージ受信後、約 60 秒で削除されます。
- 存在しないマルチキャストグループ宛での Group-specific Membership Query を受信すると、破棄されずにフラッディングされます。

6.9 ポート認証

 **「コマンドリファレンス」 / 「ポート認証」**

- SET PORTAUTH PORT コマンドで MODE パラメーターに MULTI (Multi-Supplicant モード) を指定したポートに対して、さらに SET PORTAUTH PORT コマンドの PIGGYBACK パラメーターに ENABLED を指定して実行することが可能です。設定が反映されることはなく、動作に影響はありません (Multi-Supplicant モードのポートでは、PIGGYBACK は有効になりません)。
- Multi-Supplicant モードに設定された Authenticator ポートにおいて、Authenticator からの EAP-Request に対して、Supplicant から PAE グループアドレス (01:80:C2:00:00:03) ではなく、本体 MAC アドレス宛てに EAP-Response を送信された場合、正しく認証できません。

6.10 Web GUI

 **「コマンドリファレンス」 / 「Web GUI」**

Web GUI の「セキュリティ設定」-「ポート認証」の「ポート設定」で、Authenticator ポートのモード (Mode) に Multi を指定していても、Piggy back モード (PiggyBack) で Enabled の選択が可能です。設定が反映されることはなく、動作に影響はありません (Multi-Supplicant モードのポートでは、Piggy back モードは有効になりません)。

7 未サポートコマンド

以下のコマンド (機能) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

SET HTTP SERVER PORT

SET SYSTEM LANG

8 コマンドリファレンスについて

最新のコマンドリファレンス「CentreCOM GS900M シリーズ コマンドリファレンス 1.4.5 (J613-M0220-03 Rev.E)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー「J613-M0220-03 Rev.E」は、コマンドリファレンスの全ページ (左下) に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>